



令和5年3月24日

蒲刈中学校だより

発行：呉市立蒲刈中学校
文責：校長 柿林 浩彦

第40号

令和4年度 修了式 学校長 式辞

桜の花が咲き始め、すっかり春の様相を呈してきました。時が経つのは早いもので、令和4年度の修了式を迎えることになりました。

さて、令和4年度の修了式では、「日本の植物学の父」と言われる牧野富太郎の言葉を紹介します。牧野富太郎は高知県出身で、4月から始まるNHKの朝ドラのモデルにもなっています。2年前の本校の修学旅行では、高知県にある牧野植物園を訪問しましたが、植物学では大変有名な方です。

牧野富太郎は、「世の中に雑草という名の草はない」という言葉を残しています。この言葉は、「雑草という名前の植物はない。どんな植物でもすべて名前があり、それぞれ自分の好きな場所で生きている。人間の一方的な見方や考え方で、雑草として決めつけてしまうのはいけない。」という意味も込められています。

確かに雑草という名前の植物はありません。買って来た花を花壇に植えたら、その花以外の植物を雑草と呼び、人間にとっての目的以外の植物を、すべてまとめて雑草と言っています。雑草=要らない物、邪魔な物として扱っているのです。雑草と呼ばれている植物に申し訳なく感じたり、人間の傲慢な考え方に気付いたりする人もいると思います。このように、自分の一方的な見方や考え方で勝手に思いこんでいることなどが沢山あるのではないかと思います。そんなときは、いつもとは違った見方をしてはどうでしょうか。例えば、「頑固な人は、自分の意思が強い人とも言える」「物静かな人は、人が気付かないことに気付いたり、繊細な心を持ったりしている人とも言える」などです。

今の世の中は、「多様性の時代」とも言われ、これからの時代を生き抜くためのキーワードです。一人一人が自分の生き方を選び、自分のスタイルや能力を使って生きる道を探



牧野富太郎博士が
2023年度前期
連続テレビ小説の
モデルに決定!

Dr. Tomitaro Makino

せる時代です。その一方で、相手の多様性、つまり価値観や考え方の違いも認めることが重要です。「多様性の時代」になると、人と共通することは少なくなってくるからこそ、互いに違いを認め合うことが更に必要です。

「世の中に雑草という名の草はない」という言葉から、一方的な見方や考え方ではなく、いつもとは違う角度から見たり考えたりすることや、今までの常識や概念にとらわれない柔軟な見方・考え方が必要だと感じています。

4月からは新入生が入学し、新しい蒲刈中学校をつくるスタートラインに立ちます。互いに認め合い、多様な見方・考え方を身に付けることによって、一人一人が個性を發揮し、輝くことができる蒲刈中学校を楽しみにしています。

最後になりますが、自転車による交通事故など命に関わる事故や、SNSなどを通じたトラブルには十分に気を付けてください。そして、元気に新学年を迎えましょう。

以上で、修了式のあいさつとします。



令和5年3月24日

呉市立蒲刈中学校長 柿林 浩彦

お知らせ

定期の人事異動等により、次の職員が本校を離・退任することとなりましたので、お知らせいたします。離・退任される先生方には大変お世話になりました。

離・退任者

教諭	神垣	裕子	(本校在職2年・退任)
教諭	開内	佑樹	(本校在職4年・呉市立天応学園へ)
教諭	潟岡	幸憲	(本校在職1年・任期満了)
栄養教諭	石丸	美千代	(本校在職3年・呉市立呉中央中学校へ)

